

古代文字ダンス(古代文字之舞) 【左右の巻】 解説



立命館大学 白川静記念
東洋文字文化研究所

立命館大学白川静記念
東洋文字文化研究所

1. はじめに

「古代文字ダンス（古代文字之舞）」は、漢字の成り立ちやつながりについて、ダンスを通して「体感」していただくことを目的として制作しました。

漢字の学習は、繰り返し書いて覚える方法だけでなく、その原理を理解することが大切です。漢字の世界は、語源（成り立ち）と系統（つながり）があり、いろいろな漢字が密接に結びついています。

動画には、「見てみよう（鑑賞版）」と「やってみよう（実践版）」があります。そのうち、「やってみよう」では、衣装は簡素なものを着用し、踊り手の動きが分かるようにしてあります。この動画を見ながら動きをまねてみましょう。

2. ダンスの流れ

「左右の巻」では、次の漢字の成り立ちをテーマにしています。

- ①右 ②左 ③尋 ④尊 ⑤拝 ⑥大 ⑦立 ⑧並 ⑨笑 ⑩若
⑪舞 ⑫回 ⑬永

一つの漢字について、「ダンス→となえことば」で構成されています。「となえことば」は、漢字の成り立ちを簡単な文で覚えやすくまとめたものです。

ダンスは、もちろんうまくできることに越したことはありませんが、ダンスの動きを通して漢字の成り立ちとつながりを「体感」することが目的です。まずは、気に入った部分や自分にできそうな部分から始めていき、だんだんとつないでいきましょう。

つぎに、それぞれの漢字の成り立ちを解説します。

① 右

願いこめ 器のサイを 右の手に



「右」の古代文字は「𠄎」で、「ナ」と「口」の組み合わせです。「ナ」はもともと「𠄎」で、**手の象形**（物の形を簡単な線で表したもの）です。「口」はもともと「𠄎」です。昔から**口の象形**といわれてもいますが、白川静先生はこれを「**祝詞（のりと：神への祈りの言葉）を収めた器の象形**」と考え、これを「**サイ**」と名付けました。

「右」とは、神さまのありかを探すために**サイを右手に持った**様子を表しています。

②左

神をよぶ 道具は左の 手に持った



「左」の古代文字は「𠄎」で、「ナ」と「エ」の組み合わせです。「ナ」はもともと「𠄎」で、手の象形です。「エ」はもともと「𠄎」です。昔から道具やものさしの象形といわれてもいますが、白川静先生はこれを「呪具（じゅぐ：いのりの道具の象形）」と考えました。

「左」とは、神さまのありかを探すために呪具を左手に持った様子を表しています。

③ 尋

道具持ち 神はどこかと 尋ねます



「尋」の古代文字は「𠄎」です。「ヨ」は「𠄎」が変わったものです。「寸」は「𠄎」で、これも手の形が変わったものです。そうすると「尋」は、「ヨ→ナ」「エ」「口」「寸→ナ」に分解できます。そして緑色の部分と青色の部分それぞれ組み合わせると、「ナ+エ→左」「ナ+口→右」になるのです。

つまり「尋」とは「左+右」の組み合わせで、右手にサイを持ち、左手に呪具を持って、**神のありかを尋ねる様子**だと、白川先生は解きました。

④ 尊

酒樽を 手でささげ持つ 尊の文字



「尊」の古代文字は「尊」です。「酉」は「酉」で、酒作りに用いた樽や瓶（かめ）の象形です。「酉」の上にある「八」は、酒の香りがただよっている様子で、組み合わせると「酋（しゅう）」の字になります。もともとは古酒のことでしたが、「かしら、おさ」の意味を表すようになり、「酋長」という言葉で使われます。

「寸」は手の形でした。つまり「尊」とは「酋」と「寸」との組み合わせで、「香り立つ酒を神さまにささげる」ことです。そこから「とおとい、とおとぶ」という意味を表す字になりました。

祭器（神をまつる時に用いる器）に「尊」という器があります。

⑤ 𢇛

𢇛の字は かがんで花を ぬきとる形



「𢇛」は、もとは「拜」と書きました。古代文字は「𢇛」で、「手」と「艸」との組み合わせです。「手」は手の象形で「艸」は花の象形です。つまり、もともとは、「草花を抜き取る」ことを表しました。その姿勢が**拜む姿勢に似ている**ので、「おがむ」という意味を表すようになりました。

⑥大

手と足を大きくひろげ 大となる



「大」の古代文字は「𠂇」です。手足を大きく広げた人を前から見た姿の象形です。

⑦立

手をひろげ 人がまっすぐ 立つ姿



「立」の古代文字は「𠂔」で、「大」と「一」との組み合わせです。「一」は人が立つ位置を示しています。「立」は「たつ」こと、そして「位置、くらい」を表す漢字でもありましたが、後に「位」の字を作りました。

⑧ 並

人ふたり 並んで立ってる 形だよ



「並」は、もとは「竝」と書きました。古代文字は「𠂔」で、「立」を二つ並べた形です。左右に人が並んでいる様子で、「ならば」意味を表しています。

⑨笑

両手あげ 首をかしげて 笑っておどる



「笑」の古代文字は「笑」です。下の「天」の部分が首をかしげて体をくねらせて踊っている人の形で、上の部分は両手を挙げている形です。神さまを喜ばせるために巫女(みこ)が踊っているのです。上の部分は本当は「手」なのですが、後に形の似ている「竹」に変わってしまいました。だから「笑」は、竹とは何の関係もありません。

⑩若

両手あげ おどる女の 姿が若い



「若」の古代文字は「𠂔」です。巫女(みこ)が神さまのお告げを得るために踊りながら祈っている様子です。そして神さまが巫女に乗り移ってうっとりとした状況になっているところです。その巫女は若いので「わかい」という意味を表すようになったと考えられます。

⑪舞

両袖に 飾りをつけて 舞う姿



「舞」の古代文字は「𠄎」です。両袖に飾りをつけて舞っている人の姿ですが、この字は「無」となりました。もとは「無」が「まう」という意味の字だったのです。後に「ない」ことを「無」の字で表すようになったので、「無」の「灬」を省略して、下に両足の形「舛」を付けた「舞」の字を新たに作りました。

⑫ 回

うずまきが ぐるぐる回る 目が回る



「回」の古代文字は「回」です。水が渦をまいている様子からできました。人の形や動作とは直接関係しませんが、ダンスに加えました。ぐるぐる回ってみてください。

⑬ 永

水流れ 時も流れる 永遠に



「永」の古代文字は「𠄎」です。水の流りが合わさって勢いよく流れていくさま、ながく流れていくさまを表しています。これも人の形や動作とは直接関係しませんが、「永遠に続く時の流れ」を感じてみてください。

詳しくは

『立命館大学 白川静記念東洋文字文化
研究所ホームページ』をご覧ください。



[http://www.ritsumei.ac.jp/
acd/re/k-rsc/sio/](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/sio/)

ホームページQRコード

